



弥生の出雲王に出会える

季刊

第 63 号

(2026 年 10 月)



出雲弥生の森博物館だより

IZUMO YAYOINOMORI MUSEUM

★秋季企画展

「龍と龍王——近世出雲・

大津龍王社の信仰と源流——

10月24日(土)〜

令和9年1月18日(月)

秋季企画展では、出雲市大津町の阿須利神社の前身である龍王神社に注目し、龍や龍王の信仰の源流と同神社の歴史について展示します。

龍とは、本来中国に由来する想像上の動物であり、漢代(前二世紀〜後三世紀)にそのイメージが確立していきました。多様な力を持つ存在として信仰が広がりましたが、とりわけ龍と水の結びつきは強く、日照りの時には土で作った龍(土龍)を使って雨を祈る儀式が広く行われていました。こうした水に関わる信仰の背景には、古代中国における星座・青龍との関係があったようです。中国の星座は東西南北の方角ごとにまとめられ、東方の青龍が春の夜空に現れると雨の季節がやってきたのです。人々は長年の経験から、龍を水の神と意識するようになったのでしょうか。

一方、龍王も中国に由来する信仰です。そのルーツはインドにあ

ります。インドの蛇神ナーガラージャの信仰が仏教に取り込まれて仏法の守護神となり、さらに中国古来の龍信仰とも習合して、その存在が龍王と漢訳されたのです。

そして、龍と龍王の信仰は日本へ伝来します。

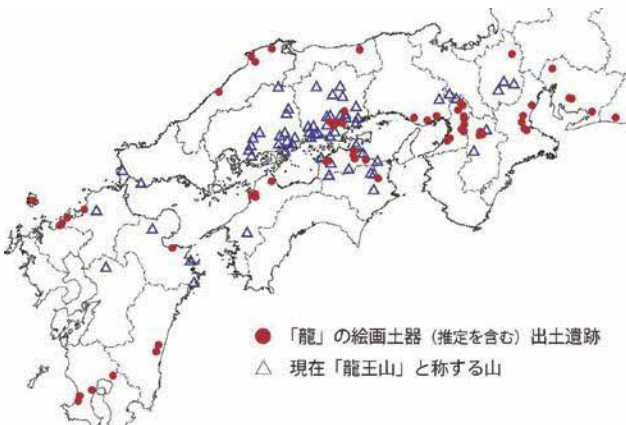
龍が伝来したのは弥生時代後期のことでした。龍や龍の記号を描いた弥生土器が静岡県から鹿児島県にかけての日本各地で見つかっています。特に多く出土しているのが大阪府や奈良県などの近畿地方中央部と岡山県や香川県などの瀬戸内地方です。岡山県倉敷市で出土した龍形土製品は細かく造形されており、中国での龍のイメージが詳細に伝わっていたことがうかがわれます。ところが、龍を描く土器は古墳時代に入ると姿を消していきました。また、龍王については、六世紀中ごろの仏教伝来以降に、その存在が日本へ伝わったと考えられます。

弥生時代の龍やその後の龍王は、ともに中国と同様に水の神として日本で信仰されたようです。弥生時代の龍の絵画土器が出土した遺跡と、現在龍王山と呼ばれる山の位置を日本地図に落としてみ

ると、ほぼ一致することが分かります。洪水や干ばつなどの水に関わる問題は今以上に生死に直結したと言え、形を変えながらも信仰は続いたのでしょう。

ところで、出雲ではどうだったのでしょうか。江戸時代に龍王がまつられた神社を確認すると、大津の龍王神社をはじめ斐伊川上・中流域にほぼ限られることが分かります。やはり水の神と意識されたようです。ただし、この流域には「八岐大蛇」にまつわる伝承もあるため、その関係が注目されるのです。

(高橋 周)



● 「龍」の絵画土器(推定を含む)出土遺跡
△ 現在「龍王山」と称する山

★ギャラリー展

「出雲のうるし
〜伝統工芸の源流を探索〜」

10月7日(水)〜

令和9年2月8日(月)

漆は、ウルシの木の樹液です。木1本あたりの採取量は最大200ccほどという貴重品で、精製すると天然の塗料や接着剤になります。その漆を用いた工芸技術を漆工といい、わが国を代表する伝統工芸として、日用品だけではなく、寺社仏閣の装飾や仏像、婚礼調度品、さらには美術品など、とても幅広い分野にその技が使われてきました。大航海時代(15〜17世紀)に日本を訪れた欧州の人々も、漆が放つ漆黒の輝きに魅せられ、漆器を「ジャパン」と呼んで愛でたほどです。

国内での漆利用の始まりは、縄文時代早期(約7200年前)に



漆採取用の土器と漆パレット
(出雲市矢野遺跡、弥生時代)

廻り、その中心は東日本でした。西日本最古の事例は、松江市の夫手遺跡で見つかった縄文時代前期(約6800年前)の漆容器です。中には赤色顔料が混ぜられた精製漆が入っており、塗料用の器であったことが分かります。

弥生時代になると、出雲平野の遺跡でも漆塗りの製品や道具が出土します。特に注目したいのが、弥生時代後期から古墳時代初期(約1900〜1800年前)の漆採取容器です(写真)。ウルシの幹に傷をつけて樹液を採る時に使った筒状の土器で、片手になじむ大きさ。折れ曲がった口縁部に紐をかけていた可能性もあります。内側には採取した漆がべつたりと付着しています。集められた漆は別の器に移して精製され、木製品などに塗られました。

ちなみに、ウルシは人の手による管理が欠かせない植物です。弥生時代の出雲平野でも、集落のそばにウルシの栽培林があり、漆を採取していた様子が想像できます。展示では、今も続く伝統工芸の源流を、このような出土資料を通して探ってみたいと思います。

(景山このみ)

★第58回出雲市

無形文化財発表会

11月22日(日)

●時間 (開場9時30分)

10時〜16時

●会場 平田文化館

●入場料 前売り 500円

当日 1000円

中学生以下 無料

※10月上旬から前売券販売予定

出演団体

三谷神社獅子舞保存会

荒茅神楽保存会

宇那手神楽保存会

宇那手火守神社獅子舞保存会

阿宮神能保存会

市森神社神楽保持者会

碓田神社青獅子舞保持者会

唐川自治会 唐川神楽

赤塚神楽佐儀利保存会

展示

直江一式飾り保存会

体験コーナー

赤塚神楽佐儀利保存会

直江一式飾り保存会

無形文化財に指定されている神楽や獅子舞など、出雲の誇る伝統芸能が一堂に会します。普段はそ



三谷神社獅子舞保存会



唐川自治会 唐川神楽

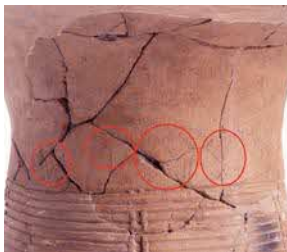
れぞれの地域でしか見ることで
きない伝統の技と心をご体感くだ
さい。

★学芸員のイチオシ!②
「弥生時代の絵画」

先日、県外の博物館を訪れた際に、走る鹿の絵が描かれた弥生土器を見る機会がありました。当館でも美談神社北遺跡（美談町）から見つかった、鹿が描かれた弥生土器を展示していますが、同じ鹿でも線の太さや、角の描き方等が異なっていました。描き手の個性が表れているのでしょう。

弥生時代の人々は、角が生え変わる様子から、鹿を再生の象徴として捉えていたという説があります。わざわざ絵を描いたことから、これらの土器をマツリに使っていたことが連想されます。

絵だけではなく、土器の文様や形にも作り手の個性は表れます。皆さんも、ちょっとした違いを探してみてください。当時の作り手のこだわりが見えてくるかもしれません。



4匹の鹿の群れが描かれています。
ぜひ実物をご覧ください!

(西村 元太)

★博物館ショップおすすめ紹介②

前回に引き続き、博物館ショップのおすすめ商品をご紹介します。

今回ピックアップする商品は、当館マスコットキャラクター「よすみちゃん」の「メモ帳」です。博物館で取り扱っているメモ帳は、全部で4種類。どのメモ帳にも「よすみちゃん」があしらわれています。

このうち、「よすみちゃん」の背後に小高い丘と木々を配したデザインは、「弥生の森」のイメージにぴったります。

メモ帳をよく使うという方も、メモ帳を使う機会がめっきり減ってしまったという方も、来館された記念としておひとついかがでしょうか。



選べる4種類!

★古文書の森をゆく②⑧
いろはとそろばん

江戸時代まで、庶民の子どもの多くの多くが寺子屋で読み書きを教わっていました。この時に使われた教科書に「往来物」と呼ばれるものがあります。「庭訓往来」という本をはじめとして、日常の読み書きに必要な単語や文章の書き方を学ぶ本で、手紙のやり取りをする形式でお手本の文章が書かれています。その文章をまねして書くことで、基本的な文法や単語の読み書きが身に付くというものでした。

やがて時代が下るにつれ、手紙をやり取りする形だけでなく、お手本の単語だけを書いたものや、教訓を含む内容に挿絵が付いたものなど様々な種類が増え、「往来物」は初等教育の教科書の総称となっていました。

たとえば百姓が使う「百姓往来」では鋤や鋤といった農機具などの名前を学べたり、農地を計る検地の説明が挿絵付きで書かれていたりします。商人の「商売往来」では商売・金融に関する単語が学べたり、両替や為替とは何かの説明されていたりと職業ごとに必要な

知識に合わせた様々な「往来物」が書かれました。

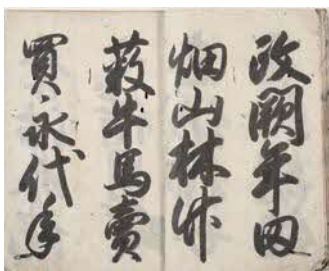
他にも、算数を学ぶための『塵劫記』という本もあります。数の単位や九九などの初歩から、税金の計算や土地の面積をもとめる計算など実践的な内容も学べる名著として有名で、「往来物」同様

に計算やそろばんの教科書の総称になりました。

こうした書籍類は個人のお宅でも大切に残されていることが多く、蔵書の種類から昔はどのような仕事をしていたか、何を学んだのか等を知ることができます。また、本に書込みがあることもあり、当時その本を使っていた人の様子をうかがい知ることもできます。

かつて子供たちに読み書きを教えた本が、現代の我々には当時の人の様子を教えてくれる本となるのです。

(荒川 英里)



『百姓往来 三』(出雲市所蔵)

★展示のご案内

▼秋季企画展

10月24日(土)～

令和9年1月18日(月)

「龍と龍王―近世出雲・

大津龍王社の信仰と源流―」

●ギャラリートーク

11月21日(土)、12月19日(土)、

1月17日(日)

いずれも10時から

▼ギャラリー展

10月7日(水)～

令和9年2月8日(月)

「出雲のうるし

―伝統工芸の源流を探る―」

●ギャラリートーク

10月10日(土)、11月15日(日)

12月26日(土)、1月24日(日)

いずれも10時から

▼速報展

開催中～1月18日(月)

「立ち会う―中山丘陵遺跡・

矢野遺跡の新資料+α―」

★講座・講演会のご案内

▼秋季企画展関連講演会

11月7日(土) 14時～16時

「阿須利神社の知られざる

蔵書群―近世・江角家の

知のネットワーク―」

・高橋 周 (当館専門研究員)

▼ギャラリー展関連講演会

10月25日(日) 14時～16時

「古代出雲の漆文化」

【講師】永嶋 正春氏

(元 国立歴史民俗博物館 教授)

秋季企画展・ギャラリー展

関連講演会の申込について

定員 各80名/当日受付なし/無料

事前申込必須(電話・メール・FAX)

●必須事項 氏名・電話番号

▼館長講座

(1) 10月4日(日) 14時～16時

「世界遺産に登録『飛鳥・

藤原の宮都』解説します①

―中央主権国家の形成過程―」

(2) 11月15日(日) 14時～16時

「世界遺産に登録『飛鳥・

藤原の宮都』解説します②

―国家宗教としての

仏教寺院の成立―」

(3) 12月13日(日) 14時～16時

「世界遺産に登録『飛鳥・

藤原の宮都』解説します③

―律令による墓制の変化―」

館長講座の申込について

定員 各80名/各回300円

事前申込必須(電話・メール・FAX)

●必須事項 氏名・電話番号

★館長古来夢

今年7月26日、奈良県「飛鳥・

藤原の宮都」の世界遺産一覧表へ

の記載が決定された。「日本国」

の形成と成立」がその価値と認め

られた。関係者の努力に感謝する。

遺産を構成する19の資産は、「宮

殿・官衙跡」5か所、「仏教寺院跡」

と「墳墓」各7か所で構成され、

明日香村を中心に分布する。掘っ

た遺産もいくつかある。

飛鳥寺跡は蘇我馬子が造営した

日本最初(588年)の仏教寺院。

本尊の銅造釈迦如来像は1400

年以上その安置場所を保ってい

る。1992年、寺の東部での調

査で礎石建物跡をみつけた。出て

くる瓦は見たことのない紋様のも

のばかりだったが、調べると道昭

(700年没)が飛鳥寺の東南隅に

造営した禅院だとわかった。道昭

は三蔵法師・玄奘を師とした高僧。

本薬師寺跡(橿原市)は680

年に天武天皇が后(のちの持統天

皇)の病氣回復を祈るため造営。

金堂跡や東西の塔跡などを掘っ

た。710年の平城京移転にとも

ない、薬師寺も移築されたとの説

が有力だったが、瓦の分析などか

らこれをほぼ否定できたと思っ

いる。

世界遺産には入っていないが、

7世紀の大規模工房跡・飛鳥池

遺跡(飛鳥寺跡の南に隣接)では、

和同開珎よりも古くに鋳造され

た「富本銭」のほか、金銀、銅

鉄、ガラスなどのさまざまな品物

が製造されていた。出土品は要す

るに出荷されなかった廃棄品Ⅱ産

業廃棄物だ。その一部がこのたび

国宝になるという。1991年以

来、調査に関わったので、感慨深

い。ただ、その中の砲弾型をした

ガラスるつぼの一つは、完全な形

で出土したのだが、持ち帰った時

に手を滑らせてバラバラにしてし

まった。「国宝」の写真を見るた

びに落としたその瞬間が脳裏に浮

かぶ。チクショ。 (花谷 浩)

(発行) 出雲弥生の森博物館

2026年10月

〒693-0011

島根県出雲市大津町2760

(TEL) 0853-25-1841

(FAX) 0853-21-6617

(E-mail) yayoi@city.izumo.shimane.jp

https://izumoyayoinomori.jp

●入館料/無料

●開館時間/9:00～17:00

(入館は16:30まで)

●休館日/火曜日

(祝日の場合は翌平日)

年末年始

